資料2－2

令和8年度（2026年度）

文 化 行 政 の 概 要

～ 目　次 ～

令和8年度文化行政の概要

文化振興施策の総合的な推進

施策の柱1　場を広げる

施策の柱2　人を育み、支え、つなげる

施策の柱3　滋賀の魅力を高める

施策横断プロジェクト　官民連携による文化芸術活動を支援する仕組みづくり

文化振興施策の総合的な推進

文化振興条例および文化振興基本方針（第4次）に基づき、文化振興施策の総合的な推進を図る。

文化振興条例

文化の振興に関する基本理念、県の責務、基本的施策等を明示するとともに、文化振興基本方針の策定について定める。

［策定経緯］ 平成13年（2001年） 12月 文化芸術振興基本法制定
平成19年（2007年） 9月 「滋賀の文化振興のあり方」提言
平成21年（2009年） 7月 「滋賀県文化振興条例」制定
平成23年（2011年） 3月 「滋賀県文化振興基本方針」策定

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画

社会情勢の変化、計画（第1次）での課題等を踏まえ、
令和6年3月に「滋賀県障害者文化芸術活動推進計画（第2次）」を策定。

●計画期間：令和6年度（2024年度）から令和10年度（2028年度）
●位置づけ：障害者文化芸術推進法第8条第1項に基づく計画

基本目標 「誰もが自分らしく文化芸術に親しみ、人と人がつながる滋賀」

3つの施策の方向（柱）	主な取組
1 親しむ（インクルーシブな文化芸術の推進）	（1）鑑賞の機会の充実にむけて （2）創造の機会の拡充にむけて （3）継続的な発表の機会の確保にむけて
2 つながる（文化芸術活動を通した社会参加の促進）	（1）障害に対する理解促進にむけて （2）障害者の文化芸術活動の社会的・経済的価値の理解促進にむけて
3 支える（地域の障害者文化芸術の推進）	（1）障害者の文化芸術を支える人づくりや共生社会に資するプログラムの企画・運営にむけて （2）地域における文化芸術活動の継続的な取組にむけて

〈施策展開の大切な観点〉子ども・子ども・子ども

計画の推進 行政、文化団体、文化施設、障害者施設、地域等と連携し、取組を進めるためネットワークの体制や構築を図る。

文化振興基本方針

人口減少・高齢化の進展等、社会情勢の変化を踏まえ、令和8年3月に「滋賀県文化振興基本方針（第4次）」を策定。

●取組期間：令和8年度（2026年度）から令和12年度（2030年度）
●位置づけ：条例第4条に規定する文化の振興に関する基本的な方針
文化芸術基本法第7条の2に規定する地方文化芸術推進基本計画

基本目標 「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」

施策の方向性

1 場を広げる（インクルーシブな文化芸術の推進）
2 人を育み、支え、つなげる（文化芸術を未来につなぐ）
3 滋賀の魅力を高める（文化的資産や文化芸術の魅力の再認識および価値の創造）

3つの施策の柱（施策の方向性）	主な取組
1 場を広げる（インクルーシブな文化芸術の推進）	（1）誰もが文化芸術に親しめる場の提供・活性化 （2）子ども・若者の文化芸術活動の充実 （3）障害者や外国人等の文化芸術活動の推進 （4）中学校部活動の地域展開を見据えた環境づくり （5）県立文化施設の保全・整備等
2 人を育み、支え、つなげる（文化芸術を未来へつなぐ）	（1）文化芸術の担い手や継承者の育成・発掘 （2）応援者（ファン）・支援者（ボランティア、資金援助者）の創出・拡大
3 滋賀の魅力を高める（文化的資産や文化芸術の魅力の再認識および価値の創造）	（1）地域で育まれてきた文化的資産の積極的な保存・継承と活用 （2）アール・ブリュットや福祉の現場から生まれた造形の魅力の発信 （3）さまざまな分野との連携による地域の魅力づくり

〈施策横断プロジェクト〉官民連携による文化芸術活動を支援する仕組みづくり

推進体制 地域、文化施設・社会教育施設・学校、文化団体、企業等が連携し、取組を進めるため、ネットワークや体制の構築を図る。

施策の柱1　場を広げる

国籍や年齢、障害の有無、経済的な状況、移住する地域等にかかわらず、誰もが等しく自分らしく文化芸術に親しめるよう、インクルーシブな文化芸術の推進を目指す。

障害者等の文化芸術活動を支える拠点づくり事業

【予算額　5,400千円】

市町や市町の文化施設と連携し、障害の有無に関わらず誰もが楽しめる文化芸術プログラムを開催する。

●令和8年度開催地（予定）：大津市、草津市、愛荘町、栗東市

●活動実績

令和3年度：守山市、長浜市、高島市
令和4年度：守山市、長浜市
令和5年度：守山市、長浜市、東近江市、甲賀市
令和6年度：東近江市、大津市、高島市
令和7年度：東近江市、大津市、草津市、愛荘町



〇誰もが楽しめるためのミュージカル取組例
・バリアフリー日本語字幕タブレットの貸出
・音声ガイド席、ヒアリングループ席、車椅子席
・移動・誘導サポート
・手話通訳や要約筆記対応



〇誰もが楽しめるためのワークショップ取組例
・移動や体調に不安のある方は自宅で参加可能
・視覚だけではなく、聴覚や触覚でも楽しめる
・手話通訳や要約筆記対応
・車椅子でも楽しめる

びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業）

【予算額　70,341千円】

県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、びわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演を実施する。

〇公演の概要：

●対 象…県内小学校（国市町立）、特別支援学校、各種学校（一般教養）、教育支援センター等
●内 容…びわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演（約60分間）

〇交通費の補助：

次の各号の経費に対して実費相当額を補助する。
（1）バス等の借り上げに要する費用および有料道路の通行料金
（2）児童生徒が電車、路線バス等の公共交通機関を利用する際の運賃
（3）感染症、非常変災およびその他協議のうえ知事が適当と認めた事由による、バス等の借り上げおよび公共交通機関の利用のキャンセルに要する費用

〇参加人数

年度	学校数	児童生徒数
令和3年（2021年）	103校	7,153人
令和4年度（2022年）	142校	9,853人
令和5年度（2023年）	173校	10,049人
令和6年度（2024年）	182校	12,263人
令和7年度（2025年）	203校	12,777人
令和8年度（2026年）	211校	16,723人





●令和8年度　市町等別内訳

大津市36校4,767人、彦根市17校1,319人、長浜市21校1,149人、近江八幡市9校535人、草津市14校1,781人、守山市4校355人、 栗東市9校1,094人、甲賀市20校1,088人、野洲市6校419人、湖南市6校312人、高島市12校457人、東近江市17校976人、米原市9校526人、日野町4校280人、 竜王町2校150人、愛荘町3校283人、豊郷町2校122人、甲良町1校16人、多賀町2校193人、県立8校505人、国立1校295人、外国人学校3校57人、教育支援センター5箇所44人

施策の柱1　場を広げる

滋賀キッズミュージアムネットワーク事業

子ども向け体験プログラムを実施している県内美術館等が、「滋賀キッズミュージアムネットワーク」として連携し、子ども・若者が文化芸術に触れる機会を県内各地で創出する。

＜しがアートフェス・キッズミュージアムイベント＞【予算額　5,723千円】
多様な主体や世代の文化交流を促進するため、県北部地域において、親子で楽しめる文化芸術体験や県内文化団体等による発表の場を提供する。

・日時　　令和8年9月26日(土)10:00～15:00(予定)
・場所　　滋賀県立文化産業交流会館
・出展者　滋賀キッズミュージアムネットワーク参加館を中心とする県内美術館・博物館等、県内文化団体等
・内容　　文化芸術体験ワークショップ、ステージ発表、活動紹介展示等

中学校文化部活動の地域連携等推進



【予算額　1,965千円】

子どもたちが将来にわたって文化芸術活動から豊かな学びを享受できる環境を維持できるよう、中学校文化部活動の地域連携を進めながら、部活動を持続可能にするための取組を行う。

◆ 地域連携・地域展開推進事業（文化部コーディネーターの配置）

市町や文化団体と連携し、地域連携を進めながら、地域の実情に応じて、新たな地域クラブ活動への展開を推進する。

◆ 地域展開を見据えた文化部活動調査委託（実態調査＆連携意向アンケート）

部活動の受け皿となる地域文化活動の実態を調査するとともに、中学校部活動との連携に係る意向を把握する。

◆ 地域展開・地域クラブ活動の推進補助金（市町向け補助金）

市町に対して、部活動の地域展開・地域クラブ活動の推進に係る経費を補助する。

滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特性を活かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興を図る。また、(公財)びわ湖芸術文化財団法人本部地域創造部(びわ湖芸術文化交流センター/BiWACC)を拠点にして、県内の文化ホールや文化団体、芸術文化活動者等と連携協働し、全県域を対象とした特色ある滋賀の文化・芸術振興の推進を図る。

◆施設概要◆(昭和63年4月22日開館)
・延床面積　10,561.04㎡
・客 席 数　イベントホール2,074席(最大席数)、小劇場203席
・そ の 他　練習室(2室)、会議室(5室)、パスポート窓口、びわこ文化センター



文化産業交流会館運営委託(指定管理)

＜指定管理者＞
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆文化産業交流会館の主な事業◆【予算額　321,010千円】

公演制作	芝居小屋「長栄座」夏のフェスティバル2026(7月25日～8月2日) シエナ・ウインド・オーケストラ コンサート(10月18日) びわ湖ミュージックコネクト(2公演)
人材養成	ユースシアター事業(12月20日) ぶんさん箏曲アンサンブル(5月～11月) 邦楽専門実演家養成事業(9月～2月(全10回))
普及啓発	小中学校への邦楽アウトリーチ「和のじかん」(10月～2月)
産業振興	文化ビジネス塾 in 文化産業交流会館(開催日時未定) 近江のあたらしい伝統産業展(8月2日)

◆地域創造部の主な事業◆

創造発信	びわ湖・アーティスツ・みんぐる(10月4日) しがユニークベニュー公演(2公演) アーツ&コミュニケーションパフォーマンス(2月27日)
芸術文化サポート	しがアートコラボレーション事業(10事業)
調査・情報提供	総合文化誌「湖国と文化」の編集・発行 年4回発行、3,000部 / 回 県内主要書店、文化観光施設、インターネット等で販売

施策の柱1　場を広げる

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わえるよう、多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催する。



◆施設概要◆（平成10年9月5日開館）

◇ホール　・敷地面積　20,000㎡（大津市から借地）
　　・建築面積　13,960㎡　　・延床面積　28,940㎡
　　・客 席 数　大ホール1,848席、中ホール804席、小ホール323席
　　・そ の 他　リハーサル室、練習室（3室）、レストラン等
◇駐車場　・敷地面積　9,485㎡（県有地）
　　・駐車台数　普通自動車（849台）、バス（3台程度）

びわ湖ホール管理運営委託（指定管理）

＜指定管理者＞
公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆びわ湖ホールの主な事業◆【予算額 1,015,120千円】

オペラ	オペラへの招待「森は生きている」（5月9日、10日/びわ湖ホール、7月18日、19日/新国立芸術劇場）、「フィレンツェの麦わら帽子」（3月6日、7日/栗東芸術文化会館さきら）、プロデュースオペラ「ドン・ジョヴァンニ」（1月23日、24日/守山市民ホール）
オーケストラ	名曲コンサート「曽我大介×日本センチュリー交響楽団」（10月10日/ひこね文化プラザ）、ジルヴェスター・コンサート（12月31日/守山市民ホール） など
室内楽・声楽	気軽にクラシック（4月12日/びわ湖ホール、11月3日/文化産業交流会館、3月22日/東近江あかね文化ホール）、室内楽への招待「ゴルトムント弦楽四重奏団」（9月5日/草津アミカホール） など
演劇・古典芸能	野村万作・野村萬斎狂言公演（7月30日、31日/文化産業交流会館）
音楽祭	びわ湖の春　音楽祭2026（4月25日、26日／びわ湖ホール）
普及事業	びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（5月27日～30日、6月1日～5日　（30日は一般公演）、学校巡回公演、ふれあい音楽教室　など
専属声楽アンサンブル	定期公演（6月20日/びわ湖ホール、9月12日/ガリバーホール、12月19日/京都府立府民ホール“アルティ”、3月27日/草津クレアホール）、びわ湖ホール四大テノール（2月20日/日野町町民会館わたむきホール虹） など

びわ湖ホール大規模改修

【R8～R9　約56億円】

びわ湖ホールは開館後27年が経過し、設備等の老朽化対策および耐震対策が必要な特定天井の改修等を行うため、令和8年から令和9年にかけて大規模改修を行っており、工事に伴い、びわ湖ホールは令和8年7月から令和10年2月までの約20か月間休館することとなる。

◆ 主な改修の内容 ◆
◇ 特定天井の改修
◇ 特定天井の改修に付随して実施する改修（竪樋改修、空調機器更新、客席の千鳥配置等）
◇ 機械・設備の老朽化で緊急に対応が必要な改修（中央監視装置、受変電設備等）
◇ バリアフリー化対応（エレベーター更新、常設車椅子の設置等）
◇ 来館者の利便性向上のための改修・その他改修（カーペットの張替等）

休館中は、文化産業交流会館との連携のほか、県内市町等の文化ホールの活用、その他アウトリーチ手法等により、これまで培ったネットワークやノウハウを活かしながら、同水準の運営を維持していく。

◆ 休館中の取組 ◆

1 県内外文化ホール等との連携
- びわ湖ホールが総力を挙げて制作するプロデュースオペラを中心に、質の高い公演を県内外で展開！（R8、R9）
- びわ湖ホール職員による市町向け、舞台技術研修会の開催

県内各地で本格的な舞台芸術を提供

3 海外公演・海外劇場との連携
- びわ湖ホール声楽アンサンブル、欧州公演への参加（R9）
- 舞台技術の習得を目的とした海外派遣研修

オペラの本場で舞台の経験を積み、びわ湖ホールの創作力を底上げ

2 びわ湖ホール声楽アンサンブルの躍動
- 学校巡回公演など、普及活動の拡充
- 子どもを対象とした交流会の実施

声楽アンサンブルの活動場所を広げ、地域の子どもたちに音楽の魅力をお届け



4 再開館を見据えた取組
- 新たな協賛メニューを設け、協賛金・寄附金の支援拡大を推進
- 県民参加による30周年記念公演の開催

ファンを増やし、びわ湖ホール30周年を盛り上げ！

◆ 今後のスケジュール ◆



施策の柱1　場を広げる

滋賀県立美術館

Shiga Museum of Art
滋賀県立美術館

展覧会の開催

滋賀にゆかりの作家の紹介や美術館のコレクションを活用するため、様々なテーマの展示を行う。

◆令和8年度展覧会予定◆

〈企画展〉	開催時期
ためして、みる展　さわって　照らして　ねそべって！？アートを楽しむ10のトライ	4/17～6/21
コレクター福富太郎の眼　昭和のキャバレー王が愛した絵画	7/3～8/30
丸木スマ展（仮称）	9/11～11/23
佐川晃司展（仮称）	1/15～3/22
〈常設展〉コレクションから名品を選りすぐった「SMoAコレクション」や、小倉遊亀作品にいつでも出会えるコーナーなどを通年展示	

教育・交流事業の展開

学校団体による展覧会鑑賞の促進や、年齢や障害の有無などに関わらず多様な人が美術に親しむことができるプログラム、地域と連携した出前講座や授業などを実施する。

①学校・教育委員会との連携による団体鑑賞や出前授業のプログラム
②対話を通じて鑑賞を深める対話鑑賞プログラムなど、様々な世代に対応する鑑賞・体験プログラム
③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティア制度

美術館魅力向上

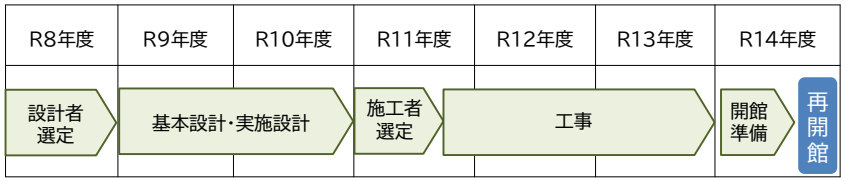
令和8年3月策定の「滋賀県立美術館整備基本計画」に基づき、美術館が県内外の多くの人に利用されるとともに、滋賀の美の魅力を発信する存在感のある施設となるための事業を実施する。

①公園・地域と一体となったエリアの魅力向上プロジェクト
②子どもと一緒に楽しめる美術館
③野外彫刻作品の設置検討
④ナイトミュージアム事業
⑤北の近江現代アーティスト展示
⑥美術館における社会的処方モデル実践

美術館整備の推進

令和8年3月策定の「滋賀県立美術館整備基本計画」に基づき、「子どもも大人も来たくなる未来をひらく美術館」の実現に向けた整備を推進。

整備のポイント
・抜本的な改修と機能充実に係る増築（キッズアートセンター、現代美術コレクション展示室、ギャラリーの移設、開かれた収蔵庫としての展示室など）
・びわこ文化公園と一体となった整備



施策の柱1　場を広げる

新・琵琶湖文化館

「近江の文化財で“つなぐ”“ひらく”未来の滋賀」を基本理念とし、人と地域、歴史と未来、滋賀と世界をつなぎ、心豊かで持続可能な滋賀をひらくことにより、県内外から多くの人に親しまれ、来館される施設となることを目指す。



◆施設概要◆（令和9年12月開館予定）
・所　　在　大津市浜大津五丁目1－1他
・敷地面積　3,000㎡　・延床面積　6644.23㎡
・建築面積　2362.01㎡　・階　　数　地上4階
◇交流エリア（1階　インフォメーションラーニングゾーン、講堂、研修室等）
・床面積　　1754.38㎡　・階高　4.20m
◇収蔵エリア（3階　収蔵庫）
・床面積　　2266.22㎡（収蔵庫　約1,500㎡）　・階高　6.15m
◇展示エリア（4階　展示室1・2・導入展示室、展望テラス、展望ロビー）
・床面積　　1899.66㎡（展示室1・2・導入展示室　約850㎡）　・階高　6.00m



目指す施設像　**「近江の文化財を保存・継承・活用・発信する中核拠点」**



近江の文化財を中心とするミュージアム

◇ 近江の文化財の調査・研究、収集・保管、展示公開を実施
◇ 文化財や文化財を生み出した自然・風土を通じ、滋賀の美の魅力を発信

地域の文化財のサポートセンター

◇ 地域の文化財の守り手、市町、県内博物館等との連携
◇ 地域の文化財の価値や魅力を活かして活用するための支援を実施

文化観光拠点となるビジターセンター

◇ 様々な文化財を生み出した滋賀の魅力を国内外へ発信
◇ 広域に文化財が点在する滋賀全体のインフォメーションセンターの役割を担い、来館者の県内各地への周遊を促進

新・琵琶湖文化館整備事業（PFI[BTO方式]）

※BTO（Build Transfer Operate）
SPCが設計・建設後、県に施設の所有権を引き渡し、事業終了期間までの維持管理・運営を行う方式

●運営業務 【県直営】

広報業務		・館の取組を効果的に情報発信するための戦略的な広報
学芸業務	収集・保管	・近江の文化財の寄贈・寄託による収集、収蔵品管理、地域文化財の緊急保護
	展示	・実物資料を中心とした様々なテーマ、切り口による展示（企画展中心の展示運営） ・オンライン展示、地域や他の施設との連携企画展の実施
	調査・研究	・近江の文化財に関する調査・研究、紀要発行、寄稿等 ・大学や研究機関との連携による保存科学分野、調査分析など専門的知見の活用
教育普及業務	情報発信・交流	・フローティングスクールの受入れなど学校活動としての博物館利用の推進 ・収蔵品データベースの一部web公開 ・すべての利用者に対応した取組 【例】触れる文化財レプリカ等
地域文化財の保存・活用	地域文化財の保存・活用支援	・地域文化財のサポートセンターとしての技術支援・相談機能の確保 ・地域の文化財所有者等との連携企画（社寺連携展示、寄託品一時返還時の祭り等発信、講座・講演等） ・地域の祭りや伝統芸能などの県民参加型イベントの開催

●運営業務 【SPCが実施】

※SPC（特定目的会社）
株式会社琵琶湖C＆S

維持管理		・施設等保守管理、修繕・更新、清掃、環境衛生管理、植栽管理、警備
文化観光等業務	文化観光業務	・近江の文化財周遊プログラムの企画 ・近江の文化財や歴史・文化に触れ、県内周遊を促進する情報発信 ・観光案内所の運営：外国人観光案内所カテゴリー1以上（日本政府観光局の認定により国内外に案内）
	集客業務	・年間12回以上のイベントを実施。滋賀の魅力を気軽に満喫するきっかけづくり
その他		・インフォメーション・ラーニングゾーンの運営、ミュージアムショップの運営（グッズ開発含む） ・WEB業務（制作、更新等） ・施設貸出（講堂、研修室） ・事務支援（利用者対応、多言語案内、利用料金徴収・収納、配布物作成等）

施策の柱2　人を育み、支え、つなげる

文化芸術の持続的な発展のため、日常的に文化芸術に親しむ応援者（ファン）の創出や拡大に向けた取組を促進するとともに、文化芸術の創りてや継承者、文化芸術と社会をつなぐ人などの文化芸術活動者の育成、確保を目指す。

滋賀次世代文化芸術センター「文化芸術連携授業」

【予算額　11,838千円(美ココロ・パートナーシップ事業分含む)】

県内小中学校の児童・生徒等に対して、文化芸術に触れる「文化芸術連携授業」等を実施している「滋賀次世代文化芸術センター」の運営を支援。

＜文化芸術連携授業＞
●活動内容：陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
●活動実績：令和7年度　17校2,976名

美ココロ・パートナーシップ事業

多様な環境下にある子どもたち（不登校や適応指導教室などに通う児童・生徒）を対象に、文化芸術体験プログラムを提供し、様々な芸術に触れる機会を提供。また、講師となる若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する取組を支援。

●活動内容：陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
●活動実績：令和7年度　19校379名





滋 賀 県 文 化 賞

【予算額　1,356千円】

本県の文化の高揚に貢献し、その功績が顕著な者を顕彰するため、滋賀県文化賞等の表彰を実施。（昭和51年に制度創設、令和8年度で51回目。）
表彰の区分：文化賞、文化功労賞、文化奨励賞、次世代文化賞の4つ

従来は推薦者を県内の市町、県内大学、文化団体等に限定していたが、候補者の確保・充実のため、平成30年度から推薦者を限定しないこととしている。

◆令和7年度 滋賀県文化賞等受賞者◆　　※下段は受賞部門

滋賀県文化賞	久末　航 芸術文化（音楽）	
滋賀県文化功労賞	坂田　さとこ 郷土文化（文化財）	豊澤　千穂 郷土文化（伝統芸能）
滋賀県文化奨励賞	馬場　晋作 芸術文化（美術）	
滋賀県次世代文化賞	該当なし	

令和7年度贈呈式の様子





施策の柱2　人を育み、支え、つなげる

文化芸術を企画・総括するアートマネージャー、地域や学校等と芸術家等をつなぐコーディネーター、文化ボランティアなど、文化芸術を県民や社会とつなぐ人材や文化芸術の創り手や継承者の育成、確保を目指す。

滋賀県芸術文化祭

【予算額　27,023千円】

県民文化の高揚を図ることを目的として、昭和46年から「滋賀県芸術祭」を開催。令和8年度で56回目となる。

〇実施事業：

＜主催事業＞

●美術展覧会：（展示期間）12月9日（水）～16日（水）
（平面・立体・工芸・書）
（会　　場）滋賀県立美術館
（内　　容）「平面」「立体」「工芸」「書」の4分野

●写真展覧会：（展示期間）10月11日（日）～18日（日）
（会　　場）滋賀県立美術館
（内　　容）単写真・組写真

●文　学　祭：（作品募集）7月1日（水）～8月31日（月）
（表 彰 式）11月23日（月・休）
（会　　場）男女共同参画センター
（内　　容）小説・随筆・詩・作詞・短歌・俳句・川柳・冠句の8分野

＜参加事業＞　芸文祭開催期間中に、市町、学校、文化団体、企業等が自主的に実施する芸術文化事業



文化財を支える人・地域魅力発信事業

文化財の保存継承を担う人の思いやその魅力を発信することにより、文化財を支える人の裾野拡大につなげる。

〇過去に作成した動画

＜R6＞
・ユネスコ無形文化遺産「風流踊」近江のケンケト祭り長刀振り
　さづかわ祭り教室
・選定保存技術の伝承「表装建具製作」保持者 臼井浩明さん

＜R7＞
・ふるさと文化財の森 西の湖のヨシを守る人々
・小谷城址保勝会の活動



文化財の子はぐくみ事業

文化財について学ぶ探訪会や体験イベントを実施することにより、子ども達が文化財に親しむ機会を創出する。

〇直近の実績

＜R6＞
・THEシガパークフェスタ2024（R6.11.3）へのブース出展
・すまいる・あくしょんフェスタ2024（R6.10.12）へのブース出展

＜R7＞
・すまいる・あくしょんフェスタ2025（R7.8.11）へのブース出展
・こほくキッズミュージアム（R7.10.11）へのブース出展

施策の柱3　滋賀の魅力を高める

文化芸術を国際交流や観光、産業、福祉、教育等と連携させ、文化芸術がもつ多様な価値を活用し、滋賀の魅力を高めることを目指す。

文化資源を活用したツアー造成事業　【予算額　2,100千円】

本県が有する文化資源を活用したツアー造成を行い、高付加価値な旅行を求める訪日外国人等を対象に効果的な文化観光を推進する。

＜概要＞
令和7年度にブラッシュアップした、県立美術館等、国際的水準の文化芸術を有する強みを活かした文化芸術施設の周遊ツアーを活用し、効果的な文化観光の推進を図る。
また、県観光文化スポーツ部観光政策局の「滋賀の文化観光推進事業」と連携し、一体的に取り組む。









近江文化発見・発信事業　【予算額　3,400千円】

滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史・風土・文化等を改めて認識し、地域への愛着を深めるとともに、その魅力を発信する。

＜概要＞
令和8年度は、司馬遼太郎氏が亡くなり30年目であり、司馬遼太郎作品を通じて滋賀県の魅力を再発見できる朗読会等を開催する。
司馬遼太郎作品の中から、豊臣秀吉・秀長が登場する作品を題材に、歴史に関する解説や作品の朗読会を開催する。



令和7年度事業
令和版近江百人一首短歌ワークショップ
―滋賀を紡ぐ―



令和7年度事業
令和版近江百人一首かるた

施策の柱3　滋賀の魅力を高める

地域資源活用交流創出事業

【予算額　11,414千円】

地域に根差した文化やアートを活用した取組をつなげ、分野や地域を超えた交流を生み出すため、新たな仕組みの構築や北部地域の振興につながる取組等を支援する。

〇事業対象者：県内に所在または活動の拠点を有する団体等

未来へ引き継ぐ美の魅力促進事業

【予算額　4,473千円】

県内の宿泊施設等で福祉の現場から生まれた造形作品の展示を行い、県内外の多くの方に、それらの魅力に触れる機会を提供する。

◆令和7年度作品設置先◆

里湯昔話 雄山荘 （大津市）	休暇村近江八幡 （近江八幡市）
びわ湖花街道 （大津市）	平和堂 HATOスタジアム （彦根市）
塩野温泉 （甲賀市）	グランドメルキュール琵琶湖リゾート＆スパ （長浜市）
滋賀ダイハツアリーナ（大津市）	奥びわ湖 尾上温泉 旅館紅鮎 （長浜市）
旧八幡郵便局 （近江八幡市）	奥琵琶湖マキノグランドパークホテル （高島市）

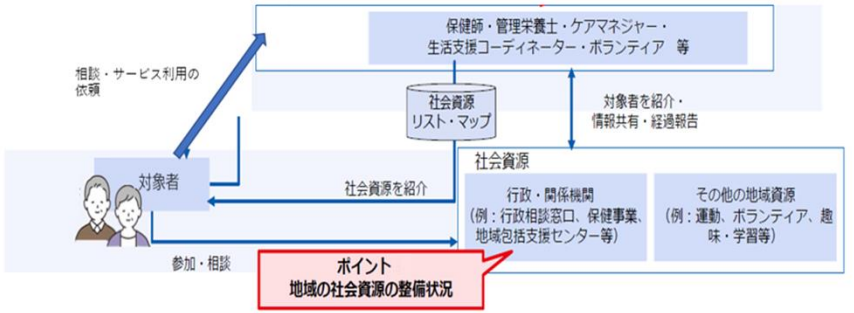
文化スポーツによる地域活性化推進

わたSHIGA 輝く国スポ・障スポ開催を通じて育まれた企業や地域等との連携関係を、文化やスポーツを通じた地域の活性化や魅力向上につなげるとともに、文化観光やスポーツツーリズムを推進する体制づくりに向けて、ワークショップ等を行う。

文化芸術による社会的処方の推進

【予算額　187千円】

＊社会的処方：
医療的な処置だけではなく、社会生活面の課題にも目を向け、地域でのボランティア活動や運動サークル活動、文化芸術の対話鑑賞等、人とのつながりや社会参加を促す取組。



社会的処方におけるかかりつけ医等とリンクワーカーの役割を、ケアマネジャーや障害相談員、保護司などが担っている部分があり、様々な地域の福祉サービスやインフォーマルな資源につないでいる。

◆ 文化でつながる健康しが社会的処方推進事業

文化活動を人々の心身の健康につなげる社会的処方の推進に向け、その考え方を広く周知し、取組の充実を図るため、美術館・博物館の職員や医療・福祉関係者等を対象に研修会を開催する。

◆ 社会的処方モデル実践（美術館魅力向上・整備推進事業）

障害者や高齢者など多様な属性の人たちが、美術を通じて社会とつながり、よりよく生きることに資する取組として、美術館において専門性や科学的知見に基づく社会的処方のモデル実践と評価を行う。

施策の柱3　滋賀の魅力を高める

文化財が持つ魅力に光を当て、地域の人々や支援者等とともに保存や幅広い活用に取り組むことで、文化財やそれらを育んできた地域に対する人々の理解や関心を深め、文化財を未来に着実に継承することを目指す。

文化財保護助成事業・指定文化財管理事業



国・県指定文化財の所有者または管理団体が実施する保存修理事業、管理事業等に対して、滋賀県文化財保存基金等を利用して助成。

「彦根城」世界遺産登録推進事業



国内推薦の獲得、ユネスコへの推薦書の提出を目指す。また、様々な機会を活用して県内外での機運醸成に取り組む。

「幻の安土城」復元プロジェクト事業



安土城の実像を明らかにし、目に見える形で復元し安土城の価値・魅力を発信。天主台周辺の発掘調査や、園路整備工事を実施する。また、機運醸成の事業として、築城450年に関連した歴史セミナーや、見える化アプリなどを活用した城内のツアーなどを実施する。

観光キャンペーンと連動した安土城の魅力発信事業



観光キャンペーンと連動して、築城450年を迎える安土城でもその魅力を発信するイベントを実施し、展示会や講演会等により安土城の魅力を発信する。

また、子どもを対象として、安土城考古博物館の展示と、安土城跡での見える化アプリを使った現地見学をセットにして、日本史の舞台を見て触れて学ぶ事業を実施する。

「近江の城」魅力発信事業

北近江の魅力を伝える城郭講座・シンポジウム等の開催や、全国のお城イベントへの出展により、「北近江の城」の魅力を県外に発信する。

また、スマホアプリを活用した城郭等の周遊イベントや、「北近江の城」を探訪する連続講座等により、北近江地域への誘客を図る。



第2回連続講座「長比城跡」

琵琶湖に眠る水中遺跡魅力発掘・発信事業

琵琶湖の水中遺跡に光を当て、滋賀県ならではの文化財の価値と魅力を発信することにより、水中遺跡の保存と活用を図るため、令和7年度末に「琵琶湖の水中遺跡保存活用計基本構想」を策定した。

また令和7年度は国のパイロット事業を受託し、深水域での調査の有効性を検討するため、長浜市葛籠尾崎湖底遺跡で実施し、良好な調査結果が得られた。令和8年度からは葛籠尾崎湖底遺跡の国登録記念物を目指す。



葛籠尾崎湖底遺跡から引き上げられた土器

施策横断プロジェクト

官民連携による文化芸術活動を支援する仕組みづくり

文化芸術活動が自立的・持続的に発展し、文化芸術に触れられる場が継続的に提供できるよう、文化芸術活動を支援する仕組みづくりに取り組む。

官民連携による文化芸術活動支援体制づくり事業

【予算額 7,000千円】

＜事業概要＞

企業の CSR 活動を促進し、文化芸術活動を支援できる体制づくりを行うため、企業を対象にしたヒアリング調査やフォーラムの開催を行うとともに、コーディネート相談窓口を設置する。

官民連携による文化芸術活動支援体制の構築

文化芸術活動が持続的・自立的に発展し、文化芸術に触れられる場が継続的に提供され、地域の魅力づくりにつながる

- 文化芸術と連携するプログラムをコーディネートする**人材の育成**
- 文化芸術と活動を支援する資源・企業等との**マッチング**
- **公募型助成事業**における伴走支援



【令和8年度事業】
○企業とのネットワークを構築し、文化芸術活動を支援する機運醸成のため、**企業への調査やフォーラムの実施**
○文化芸術関係者および企業の相談を受け付けるため、**相談窓口の設置**

＜令和7年度の相談支援体制、情報発信体制状況＞

アートの窓口しが

【アートの窓口しが】
対象者：滋賀県内在住または県内を活動拠点とする文化芸術関係者
相談方法：『アートの窓口しが』の公式HP内相談フォーム
料金：無料
https://amado-shiga.net/

【SHIGA Art】
県民の皆さまと文化芸術に関わる皆さまがつながり、滋賀県の文化芸術をもっと身近に感じてもらうためのポータルサイト
https://www.pref.shiga.lg.jp/shiga-art/index.html